



平成29年10月14日(土)

藤 棚

第343号
生徒募集特別号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

本校入学試験に合格する秘策について、受験生に伝えて下さい

校長 小川義男

本校に在籍している生徒諸君は、既に難関を突破している人たちだから、「入試など大したことない」くらいに考えているかも知れません。しかし、受験生にとって、それはなかなか困難な課題であるのです。

特に、校長推薦の基準とか、合格に要する偏差値とかを聞かされると、「狭山ヶ丘入試」は、実存以上に、峻険な峰に見えてしまうのです。

大切なのは、今の「内申」や実力、偏差値ではなく、「狭山ヶ丘」に合格しようとする決意です。まだまだ時間がありますから、計画を立てて勉強して下さい、入試には、確実に合格できます。受験生の皆さんに、諸君から、この事を伝えて下さい。

結果が分かるまで不安ですね。個別相談は、そのためにあります。校長推薦を頂けなかった人は、「自己推薦」として、自分の長所や決意を述べて、自分を売り込んで下さい。お父さん、お母さんのお書きになる、「家族推薦」でも結構です。

もうひとつ、入試には、「一般入試」というものもあります。今年の場合これは、2月5日に行われます。これは推薦入試ではなく、文字通り実力一本で行われる試験です。

最後に行われる試験なので、ほとんどの受験生が失敗するのではないかと、思う人がいるかも知れませんが、そうではないのです。何度かの難関入試に挑んで失敗した人が挑戦するということもありますが、それまで、本校推薦入試に失敗した人たちが、最後の勝負を賭けて挑戦する場合もあります。それが、意外なほど高得点を獲得する場合が多いのです。「戦いながら」「戦いの途上で」実力がついてくると言うことなのでしょうね。

私は「一般入試」の最終審査をしているとき、人間とは、どれほど大きな可能性を蔵しているものなのかということを考えさせられます。それは、ほとんど感動に近い感情です。推薦入試は、校長推薦、自己推薦、保護者推薦、どんな形を取るにしても、全員が公平な観点で審査を受けることになります。「今の内申が良くないから」と言って、絶対に失望したり落胆したりしてはなりません。それは、在校生が、大学入試に挑戦する場合にも同じです。

常に大切なのは、「今の実力」ではなく、明日に向かって戦い抜く決意そのものです。在校生諸君から、折あるごとに、受験生諸君に、この消息を伝えてあげて下さい。

大切なのは、今ではなく明日です。明日に向かって奮い立ち、燃え立つ気力を有しているか否かです。

個別相談では、今の内申、今の偏差値ばかりでなく、明日に向かって、いかに厳しく戦う決意を有しているかどうか、命がけで戦い抜く決意があるかどうか大切にになります。

個別相談に当たるのは、受験生諸君の、決意と闘志を燃え立たせようとする、本校教師達です。彼らは教育の専門家ですから、皮相に内申や偏差値のみを見るのではなく、受験生が「内に蔵している」ど根性、決意、闘志、真面目さを見るのです。彼らは「今日の実力」ではなく、受験生の明日、可能性そのものを見るのです。その末に彼らは、受験生の敵ではなく、最愛の味方として、受験生諸君の可能性を開花させるべく努力するでしょう。彼らが、「大丈夫でしょう」と言った場合、それは「相当に大丈夫」なのです。

但し狭山ヶ丘は、出席実績については厳しい学校です。中学三年次の一年間に、欠席十日以内であることが期待されます。

最近では、どういふものか、学校を休みがちになる人が少なくありません。人間、いつでも明るく快活というわけには行きません。私でさえ、連休の前などには、何かしら楽しいような、解放されたような気分になりますから、健康な大人にとっても、職務には、苦役としての一面があるのかも知れません。

しかし、世の中に出るからは、少し浮かない日も、何となく気が重い日があっても、職場に急がなくてはなりません。勿論、大人の世界には、年間二十日の年次有給休暇というものもあります。しかし、それ以外は原則として、毎日働きに出かけなくてはなりません。その誠実な勤労が、世の中全体を支えているのです。

ですから「休まず学校へ登校することができるかどうか」それは、今、生徒諸君が考えている以上に大切な問題なのです。本校は、三年生の時の欠席が十日以内であることを求めますし、一般入試の場合も、欠席日数があまりに多い場合には合格させないことにしています。

本校の卒業式には、三年間皆勤、三年間精勤の生徒名が発表され、「全員起立」が命じられます。その人数の多さに感動してしまい、校長が、思わず涙を流してしまったこともあります。成績も大切だし、偏差値も大切です。しかし、出席日数は、それ以上に大切であり、その意味で本校入試は、三年生の一年間の欠席日数が十日以内であることを求めるのです。この消息を、在校生からも、受験生諸君に教えてあげて下さい。

実力、学力は、決意さえあれば、意志力さえあれば、まだまだ伸びていきます。学校が求めるものは、伸びていこうとする決意、意志力、生真面目さであると理解して下さい。

狭山ヶ丘は、来年度の高校入学生の中から、東大合格者十人を出すという決意と秘策を持っています。

それは努力した者、意志力ある者を「東大特講」として先頭集団を形成し、演習中心、自学自習中心のグループを形成することです。在校生は勿論、これから入学してくる生徒諸君にも、「東大を目指すなら狭山ヶ丘が絶対に有利である」事を教えてあげて下さい。狭山ヶ丘は、県トップの進学校を目指すだけではありません。関東全域にその名を知られるような進学実績を達成し、文字通り日本を導ける指導者を育成することを目指しているのです。